

第6学年 国語科学習指導案

日時 平成21年10月23日(金) 第5校時
児童 男子15名 女子14名 計29名
授業者 鈴木 秀寿

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう
- 2 教材名 「平和のとりでを築く」(説明文) 大牟田 稔
自分の考えを発信しよう/インターネットと学習 光村六年下
- 3 単元について

(1) 教材について

第5学年及び第6学年の「読むこと」の指導目標は、「目的に応じ、内容や要旨を把握しながら読むことができるようにするとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる」である。これを受けて本単元では、「筆者が訴えたいことを読み取り、それについて自分の考えをもつ。」「平和についてさらに考えるために調べたり話し合ったりし、深まった考えを分かりやすく組み立てて書き、発信する。また、今後も考え続ける意欲をもつ。」ことをねらいとしている。

「平和のとりでを築く」は、原子爆弾によって傷だらけになった原爆ドームが、多くの人々の平和を願う心によって世界遺産となった経緯を述べた説明文である。本教材は「筆者の思い」→「原爆ドームのたどった歴史」→「世界遺産への道のり」→「筆者の考え」の構成でできており、最後に筆者の強い思いの文で締めくくられている。文章も簡潔で分かりやすく、史実も時系列に沿って説明されている。これによって事実関係や筆者の考えを受け止めやすく、「平和」に対する筆者の考えについて、自分の考えをもつという学習のねらいに適していると考えられる。

「自分の考えを発信しよう」では、「平和」というテーマに関わる多様な材料を集め、自分の考えをもち、発信していく学習である。様々に情報を集め、それから学ぶだけでなく、それをもとに自分の考えを深め、外部に発信していくことで、表現能力を高めていくことのできる教材であると考えられる。

(2) 児童について

6年生となり、児童は説明文の学習としては上巻の「生き物はつながりの中に」の学習では、「つながり」をキーワードに、ロボットとの違いから生き物の特徴を見つけ、要点をノートにまとめる活動を行ってきた。また、要旨をとらえ、読み取った内容について自分の考えをもつ学習をしてきた。「森へ」の学習では、様々な表現の仕方にふれながら、筆者が伝えたい事柄を各自が読み取り、それを交流し合うという活動を行ってきた。

これらの学習をとおり、キーワードや接続語、文末表現などを手がかりにしながらかいてある内容について理解し、筆者の主張や表現の工夫について、考えられる児童も増えてきている。しかし、個々の読み取りには個人差があり、書いてある内容を要約したり、筆者の考え・意見に対して自分はどうか考えるのか、うまくまとめることのできない児童もいる。

ペア学習においては、話し合いの内容に差があるため、ペア学習の進め方(フォーマット)を準備し、全児童が最低限の話し合いを進められるよう手立てを講じてきた。その成果が少しずつあがり、今では与えられた時間を有効に活用しお互いの考えを交換し合うことに違和感を持つことは無くなってきた。学習の交流に関わっては、まだまだ形式的な感想ばかりが多く、指導内容に深く関わるような発言をするまでには至っていない。

(3) 指導にあたって

「戦争」に関わる教材としては、3年生で「ちいちゃんのかげおくり」、4年生で「一つの花」等の学習をしているが、戦後60年以上が経過している現在、戦争を現実感のあるものとしてとらえることは児童にとって困難であると考えた。それを踏まえ、「平和のとりでを築く」の導入においては、「戦争」をキーワードに、各自が自分の課題を持って調べ、それを交流し合うことで、より「戦争」を自分の内的なものとしてとらえさせ、教材に入っていく。

「平和のとりでを築く」では、既習事項を生かし、段落ごとの細かい読み取りではなく、全体として大筋をとらえることを大切にしていく。しかしそれは大雑把に読み取るということではなく、筆者の表現の工夫や接続詞、文末表現などに着目しながら、事実と考えを区別しながら、書かれている「原爆ドームがたどってきた年月」「筆者の考え」を理解していこうとするものである。「たどってきた年月」については表にしてまとめていくが、ポイントとなった出来事や言葉についても併せておさえていく。

第二次「読み取る」のまとめの段階では、「戦争は人の心の中に生まれるもの」「人の心の中に平和のとりでを築く」の二つの言葉に着目させ、それぞれがどんな意味を持つのか考えて書く活動をとおり、筆者の考えを読み取るだけでなく、それに対する自分の考えがもてるようにしたい。その後、学び合いでお互いの考えを発表し、交流し合うことで、さらに考えを深めさせていく。

「自分の考えを発信しよう」では、「平和」に関してもっと知りたくなったこと、感じたことを出し合って問題意識を高めさせていく。自分の考えをもち、その考えに説得力を持たせるための情報を集め、その情報をもとに要旨を確定させ、文章の構成を考えさせながら意見文として書きまとめさせていく。単元全体をとおり、ノートを使い方や学習の約束を生かしながら、一人一人が読み取れるようにしていく。

一人学びは、基本的に自力解決を目指す、負担の大きい児童もいると思われるので、初めの指導を十分に行うとともに、ペア学習を用い、個々の考え・意見を大切にしながら扱っていく。

学び合いでは、友達と自分の考えを比べながら聞かせ、相違点や共通点を意識させながら話し合わせ、考えを深めさせたい。補足しながらも自分の言葉でまとめさせていく。

3 指導目標

(1) 関心・意欲・態度

○筆者の訴えたいことを自分なりの考えを持って読んだり、まとめたりしようとする。

(2) 書くこと

◎自分の考えを明確に表現するために、効果的な文章の組み立てを考える。(書ウ)

◎事実と意見を区別して書いたり、自分の考えが読み手に伝わるように分かりやすくまとめたりする。(書エ)

(3) 読むこと

○「平和のとりでを築く」という題名が意味することに注意しながら読む。(読イ)

◎事実と筆者の意見や訴えたいこととの関係をおさえ、自分なりの考えを持ちながら読み取る。(読エ)

(4) 言語事項

◎文章のさまざまな構成を理解し、適切に使うことができる。(言オ(ア))

4 指導計画 (15時間扱い) 本時 7時間

	学 習 活 動	評 価 規 準		
		関心・意欲・態度	◎読むこと ○書くこと	言語事項
第一 次 つ か む 2	1 全文を読み、初発の感想を書く。学習の見通しをもち、学習計画を立てる。新出語句、漢字の練習をする。(1)	・進んで感想を書こうとしたり、学習の見通しをとらえようとしていたりしている。	○初発の感想を書くことができる。	・新出漢字の読みや語句の意味について理解することができる。
2	2 文章全体の構成をつかむ。「戦争」「世界遺産」について理解した上で全文を読み。学習課題を持つ。(1)	・「戦争」「世界遺産」について、意欲的に理解しようとしている。	◎段落の構成をとらえることができる。	・文章の構成について理解することができる。
第 二 次 読 み	1 文章の内容をとらえ、筆者の考えを読み取る。文章の段落構成をとらえる。(1)	・永久保存についての筆者の考えや自分の考えを、積極的に発表しようとしている。	◎1を読み取り、学習課題をたてることができる。	
2	2 時系列に沿って、「原爆ドーム」がどのような歴史をたどったのかを読み取り、表にまとめる。(3)	・「原爆ドーム」がどのような建造物であるのか、意欲的にとらえようとしている。	◎西暦や原爆ドームの様子に着目し、年表にまとめるとともに、筆者が何を伝えたいのかを読み取ることができる。	
3	3 筆者の考えに対する自分	・「戦争を生み出す	◎「原爆ドーム」見	

取る 5	の考えをもち、深める。 (1)	人の心」「人の心の中に平和のとりでを築く」こととは何かを意欲的に考えようとしている。	る人の心に平和のとりでを築くための世界遺産なのだ」といふ筆者の考えを自分なりに読み取ることができる。	
	4 筆者の伝えたいことについての自分の考えを交流し合う。 (1)	・自分の考えをもち、積極的に発表しようとしている。	◎筆者の考えをとらえ、自分の考えをもち、まとめることができる。	
第三 次 ひ ろ げ る 6	1 筆者の伝えたいことをもとに、平和について考え、交流しテーマを決める。 (1)	・平和についての自分の考えを積極的に発表し、友達のことを聞こうとしている。		
	2 自分の伝えたいテーマについて調べる。 (2)	・進んで自分のテーマについて調べようとしている。	○調べたことをメモしながらまとめていくことができる。	・必要な語句などについて、辞書などを使い調べることができる。
	3 意見文の構成を考える (1)	・事実と意見・考えを区別して、説得力のある文章構成を考えようとしている。	○事実と意見・考えを区別して、説得力のある文章構成をすることができる。	・段落構成を理解することができる。
	4 意見文を書く。 (2)	・事実と意見・考えを区別して、自分の考えが伝わりやすい文章を書こうとしている。	○事実と意見・考えを区別して、自分の考えが伝わるような文章を考えることができる。	・伝えたいことがよく分かるような文末表現について理解することができる。
まと める 1	1 意見交流会を開く。 (1)	・単元ふり返り、「平和」について友達の意見を聞きながら、自分の考えを深めようとしている。		・友達の意見に対する感想を、適切な言葉遣いで話すことができる。

5 本時の授業

(1) ねらい

自分の読みをとらえ直し、筆者の伝えたいことより深くとらえることができる。

〈具体的な評価規準〉

	おおむね達成	支援の手立て
具体的評価規準と支援の手立て	まとめの段落に着目し、叙述を丁寧に読み取りながら、根拠を明らかにして、筆者の伝えたいことをとらえることができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・重要語句にサイドラインを引かせながら聞き取り指導をする。 ・ペア学習の際に、友達の意見をノートに記入するよう指示をする。

(2) 本時の指導にあたって

本時の授業は、児童と一緒にまとめの段落の叙述に対して問いを投げかけながら、筆者の伝えたいことを読み確かめていくための視点を明確に持たせながら学習を行う。

児童は前時までに、「原爆ドーム」がたどってきた歴史を学び、それをもとに「筆者は何を伝えたかったのか」ということをまとめている。本時はそれをもとに、⑬段落に筆者のより強い思いが述べられていることを理解させ、⑬段落に書かれている、「戦争は人の心の中で生ま

れる。」「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」という二文に着目し、その意味についてより深く理解させる。

一人学びでは、これまでの学習内容や、「戦争」について調べた自分のまとめを生かしながら、筆者が述べる「戦争を生み出す人の心」「平和のとりでを築く」とはどのようなことであるかを、自分なりの言葉でまとめさせていきたい。なかなか自分の考えがもてない児童に対しては、個別指導を行い、自分が調べた「戦争」の内容を生かしながら、まとめさせる。また、ペア学習をおこない、となりの児童と意見を交換しながら考えをまとめさせることで、その支援とする。

学び合いでは、自分なりの考えをもったうえで交流を図っていく。一人ひとりの考えを大切にしながら多様な考えを引き出し、その後の自分の意見の見直しへとつなげていく。

(3) 展開

段階	学習活動		予想される児童の反応	指導上の留意点
	学習の流れ	主発問等		
つかむ 5分	1 前時の学習を想起する	○前の学習内容を教えて下さい。 ・⑩段落で伝えたかったことは何でしょう。	・⑩段落の筆者の伝えたいことを考えました。 ・原爆ドームは、核兵器は不必要だと世界の人々に警告する記念碑なのだということです。	・前時にノート（表）にまとめた事をもとに想起させる。 ・前時まで学習した段落ごとの事実と筆者の考えをまとめたワークシートを準備しておく。 ・学習課題を示し、みんなで筆者の伝えたいことは何かを考えていく時間であることを明確にする。
つかむ 5分	2 学習課題を把握し見通しを持つ 「平和のとりで」の役目を考えよう。			
ふかめる 35分	3 課題解決をする (1) 学習場面を音読する (2) ⑬段落の叙述の意味を考える。 【一人学び】 【学び合い：ペア】 【学び合い：クラス】 (3) 筆者の伝えたいことをより深くとらえる。	○文末表現に着目して読みましょう。 ・「戦争を生み出す人の心」とは、どんな心だと思いますか。また、「人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とは、どういうことだと思いますか。 ・考え、話し合ったことを発表しましょう。 ・交流した考えを生かし、課題に対する自分の考えををノートにまとめましょう。	・⑩段落と⑬段落を読む。（全員読み） ・自分なりの考えを書く。※Cへの手立て ・ペアで意見交流する。 ・考えを発表し、それについてどの考えが筆者の伝えたいことか、意見を交流し合う。 ・友達の意見を参考にしながら、とりでの役目を自分の言葉で書く。	・「一た。」「一る。」「一だ。」の書きわけに着目させ理解させる。 ・「戦争」という言葉を学級の様々な問題に置き換え、その心模様を具体的に探らせる。 心→とりでの順に考えさせる。 ・「戦争を生み出す心」「平和のとりで」それぞれに自分の考えをノートに記入した後、ペア学習を取り入れる。 ・学級全体が関わりやすいような考えを持った児童を第一発言者にする。 ・心の内と外の両面から、とりでの役目を考えさせる。 ・まとめ終わった児童から、短冊黒板に記入させる。
まとめ 5分	4 学習のまとめをする (1) 課題に対するまとめを行う 【学び合い：クラス】 (2) 学習のふりかえりをする 5 次時の予告をする	○まとめた自分の考えを発表して下さい。 ○なぜ、筆者は「平和のとりでを築く」という題名にしたと思いますか。班で話し合ってみましょう。 ○自己評価をしましょう。 ・次の時間は、筆者の伝えたいことに対する自分の考えを書きます。	・自分が考えた筆者の考え（修正したものも含め）発表する。 ・戦争は人の心(気持ち)が原因だから、その心が悪くならないようにきちんととりでを作って平和を守らなければということを生かしたから。 ・自己評価をする。	・数名指名 ・叙述を根拠とする発言では、教科書のページ数を示し確認する。 ・⑩⑬の要旨を比較させる。 ・題名について考えさせるきっかけとして位置づけ、これまでの学習が全て題名に直結することに気付かせる。 ・自己評価カードを活用する。

(4) 板書計画

筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう

平和のとりでを築く

大牟田 稔

【課題】

「平和のとりで」の役目を考えよう。

⑬ 国連のユネスコ憲章には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」

と記されている。原爆ドームは、それを見る人の心の中に平和のとりでを築くための世界遺産なのだ。

○ 「戦争を生み出す心」とは何か

- ・憎しみ
- ・怒り
- ・欲望
- ・わがまま
- ・自分勝手
- ・だれでも持っている心
- ・うらやむ心
- ・黒い心

○ 「平和のとりで」とはどういうことか。

- ・平和を思う気持ち
- ・戦争をしない強い気持ち
- ・やさしさ
- ・様々な戦いから自分たちを守る
- ・安全で安心な空間
- ・何も寄せ付けない丈夫な壁

【まとめ】

平和のとりでの役目は、

児童の考え